

事業報告書

(平成24年度)

学校法人 智香寺学園

東日本大震災の名残りとも言えるエネルギー問題、円高、株安等の経済・社会問題を抱えて推移している中、昨年の政権交代以来、いわゆる「アベノミクス」効果と言われる急速な回復基調で期末を迎えた状況にあります。しかし、学校を取り巻く環境は、少子化の加速による経営環境の悪化が緊急の課題として浮き彫りとなって来ております。

このような困難な時代を迎え、我々教育機関に与えられた使命は年々幅広く、且つ、重要度を増しております。優れた人材の育成、科学技術発展への寄与はもちろんのこと、地域との連携により、様々な形で社会に還元出来る仕組み作りを重点課題として取り組んでおります。

学園は、平成 25 年度に創立 110 周年を迎え、更なる発展を目指して参りますが、その足下とも言える平成 24 年度本学園の取り組み状況を次の通り報告させていただきます。

目 次

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等	1
(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(3) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 教員	
③ 職員	

2. 事業の概要

(1) 平成 24 年度事業の概要・実施状況	3
大学部門	
① 大学基準協会の認証評価受審	
② がんばる！学生プロジェクト	
③ 学生定員の変更	
④ 研究計画の進捗状況	
⑤ 科学研究費・その他助成事業	
⑥ 地域交流計画の実施状況	
⑦ 主な施設設備計画の実施状況	
⑧ 就職事業状況	
高校部門	13
① 平成 24 年度卒業生進路実績	
② 平成 25 年度入学者実績	
③ 転入学者、転退学者数	
④ 学生向上策	
⑤ 人格形成	
⑥ 社会人としての資質の醸成	

3. 財務の状況

(1) 概況	15
(2) 連続消費収支の状況	15
(3) 資産負債の状況	15
(4) 連続貸借対照表の状況	16

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等

(平成24年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	平成10年4月	6		12
	電子工学専攻	平成19年4月	7		14
	応用化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	平成12年4月	2		6
	電子工学専攻	平成22年4月	2		6
	応用化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	110		340
生命環境化学科	平成19年4月	80		320	
情報システム学科	平成19年4月	120		460	
ヒューマン・ロボット学科	平成19年4月	0		120	
工学部小計		310		1,240	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	110		440	
心理学科	平成14年4月	80		320	
人間社会学部小計		190		760	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日課程 普通科		400		1,200	
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(平成24年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	システム工学専攻	6	9		22
	電子工学専攻	7	10		23
	応用化学専攻	7	6		12
	(博士後期課程)				
	システム工学専攻	2	0		0
	電子工学専攻	2	3		7
	応用化学専攻	2	3		4
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	6		8
	心理学専攻	15	5		15
	大学院小計	51	42	0	91
	工学部				
	機械工学科	110	123		347
電子工学科	0			2	
情報工学科	0			3	
生命環境化学科	80	100		383	
情報システム学科	120	152		597	
ヒューマン・ロボット学科	0	0	1	93	
工学部小計	310	375	1	1,425	
人間社会学部					
情報社会学科	110	106		445	
心理学科	80	61		255	
人間社会学部小計	190	167	0	700	
大学合計	551	584	1	2,216	
正智深谷高等学校 全日課程 普通科	400	362		1,081	
高校合計	400	362		1,081	
法人合計	951	946	1	3,297	

(3) 役員・教職員概要

① 役員

(平成24年5月1日現在)

理事・監事 の区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山 俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)	財務担当	宇都宮 孝和	平成19年4月
理事 (常勤)	理事長	松川 聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)		松川 文豪	昭和42年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤 良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	渡辺 達治	平成23年4月
理事 (非常勤)		神居 文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪 行雄	平成19年4月
理事 (非常勤)		馬岡 清人	平成23年4月
理事 (非常勤)		緒方 延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)		宇高 良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		川田 博美	平成12年12月
監事 (非常勤)		今岡 達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷 仁海	平成19年7月

② 教員

()内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(55)	9	(55)
先端科学研究所	1(15)	0	1(15)
工学部	48	94	142
人間社会学部	23	50	73
大学計	72	144	216
正智深谷高校	57	24	81

③ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	3		3
大学部門	61		61
高校部門	11		11
合 計	75		75

2. 事業の概要

(1) 平成 24 年度事業の概要・実施状況

大学部門

① 大学基準協会の認証評価受審

本学においては、平成 23 年度実施した「自己点検評価」に基づき、平成 24 年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証評価）を受審しました。この申請は平成 19 年度に受けた認証期間の終了に基づく 2 回目の申請となりますが、改正された現行の評価基準に基づく書類審査、実地審査等を経て、平成 25 年 3 月に大学基準に適合している旨の認定を受けました。なお、認定期間は平成 25 年 4 月 1 日から 7 年間の平成 32 年 3 月 31 日までとなりました。

この評価結果を受けて、平成 25 年度新たなスタートを切ることになりますが、今回の評価結果の中で「改善勧告」1 項目、「努力課題」4 項目の指摘がありました。それを真摯に受け止め、今後、実効ある自己点検作業を継続的に実施し、改善に取り組んで行く方針です。

② がんばる！学生プロジェクトの推進

目的：学生の自主性・創造性の向上と、学生相互の交流の活性化

〈平成 24 年度は以下のプロジェクトが様々な活動を行いました。〉

(1) SIT EV Project
(2) 四畳半鉄道模型旅行プロジェクト
(3) SIT Aquarium Project
(4) めだかの園プロジェクト
(5) 自然環境保護プロジェクト
(6) 集まれ科学実験教室プロジェクト
(7) OKABE 光の回廊プロジェクト
(8) 米と日本酒（米作り、そして日本酒へ）プロジェクト

【主な活動報告】

*SIT EV Project

筑波サーキットにおいて開催された「第 18 回日本 EV フェスティバル(Japan EV Festival 2012)」の電気レーシングカート部門で 3 位入賞。

*四畳半鉄道模型旅行プロジェクト

10 月 20 日（土）に、JR 高崎駅構内東口付近、ラジオ高崎サテライトスタジオ隣にて開催された上越新幹線開業 30 周年記念特別企画「トレインカーニバル in 高崎」に、「大迫力！鉄道模型ギャラリー&ワークショップ」を出展しました。

***集まる科学実験教室プロジェクト**

8月16日(木)に、「東工大 ScienceTechno」、「東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST」と共催で、日本科学未来館(東京都)において、子供を対象とした科学イベント『サイエンスリンク～キミとカガクをつなぐ夏～』を開催しました。彼らが行った「マイクロカプセル作り」は、来場者による人気投票で、堂々の第1位となり、フィナーレで「サイエンスリンク大賞」を受賞しました。

***自然環境保護プロジェクト**

黒斑山や、車山での清掃活動を始め、大学の最寄駅にあたる JR 高崎線 岡部駅から大学間の清掃活動を定期的実施

***OKABE 光の回廊プロジェクト**

- ・ふかや市商工会青年部と、JR 高崎線 岡部駅南側に位置する「岡部希望が岡公園」に冬季イルミネーションを設置するための、設置作業、オブジェの製作、公園清掃作業等を協働で行うことを目的とした協定の調印式を実施
- ・JR 高崎線 岡部駅に隣接した岡部希望が岡公園でイルミネーション点灯式
- ・大学構内で 2012 イルミネーション点灯式

***米と日本酒(米作り、そして日本酒へ)プロジェクト**

Made in 埼玉大の日本酒づくりを目指し、地元の農家、酒造会社と協同で、米作りから日本酒になるまでの一通りの行程を1年間かけて実施

- ・6月 深谷市山河で農業を営む松本さんと協同で田植えを実施
- ・10月 稲を収穫
- ・2月 深谷市横瀬の丸山酒造株式会社の協力の下、酒造り合宿を実施

③ 学生定員の変更

平成 24 年度に学生定員の変更を実施

工学部			
機械工学科	110名	→	110名
生命環境化学科	80名	→	100名
情報システム学科	120名	→	130名
合計	310名	→	340名
人間社会学部			
情報社会学科	110名	→	100名
心理学科	80名	→	60名
合計	190名	→	160名

④ 研究計画の進捗状況

- ・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）

研究期間 平成 23 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

研究課題 機能的ナノ材料による新規な表面・バイオセンシング技術の創出

研究費 23,000,000 円 (PD・RA 経費含む)

⑤ 科学研究費・その他の助成事業

- ・科学研究費補助金の獲得（日本学術振興会）

平成 24 年度実績 9 件 17,470,000 円

(内訳)

基盤研究 B	趙希祿教授	3,900,000 円
基盤研究 C	有谷博文准教授	3,380,000 円
基盤研究 C	渡部大志准教授	910,000 円
基盤研究 C	曹建庭教授	1,170,000 円
挑戦的萌芽研究	巨東英教授	1,300,000 円
基盤研究 B	佐藤由美教授	3,380,000 円
基盤研究 C	内田法彦准教授	2,080,000 円
若手研究 B	河井理穂子講師	700,000 円
挑戦的萌芽研究	大塚聡子准教授	650,000 円

- ・私立大学教育研究活性化整備事業（文部科学省）

事業名 高倫理観を備えた技術者育成のためのものづくり教育

補助金額 14,925,000 円 (全額補助)

- ・私立大学等研究設備整備等補助金（文部科学省）

事業名 高機能・高精度加工システム (ものづくり支援センター)

購入金額 39,900,000 円

補助金額 2 分の 1 補助 (24 年度補正予算で実施)

- ・私立大学等研究設備整備等補助金（文部科学省）

事業名 双方向コミュニケーションシステム (3011・3012 教室)

購入金額 19,950,000 円

補助金額 2 分の 1 補助 (24 年度補正予算で実施)

- ・平成 24 年度県内企業工業イノベーション支援事業（埼玉県）

目的 厳しい経営状況が続く中、県内中小企業の『企業価値の創造』を目指して新たな成長分野へ進出する企業を総合的に支援するため産学連携の実績ある県内の研究機関にコーディネーター・補助員を配置しイノベーションに取り組む企業を強力に支援することを目的とする事業。

委託期間 平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 3 月 22 日

委託費 8,298,360 円

⑥ 地域交流計画の実施状況

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

【平成 24 年度新たに以下の 2 校と教育連携協定を締結】

- ① 埼玉県立皆野高等学校
- ② 群馬県立太田工業高等学校

【平成 23 年度までの教育連携協定校 19 校】

- ①智香寺学園正智深谷高等学校
- ②埼玉県立久喜工業高等学校
- ③埼玉県立深谷商業高等学校
- ④埼玉県立熊谷工業高等学校
- ⑤埼玉県立児玉白楊高等学校
- ⑥埼玉県立寄居城北高等学校
- ⑦埼玉県立深谷高等学校
- ⑧埼玉県立深谷第一高等学校
- ⑨群馬県立伊勢崎工業高等学校
- ⑩群馬県立前橋工業高等学校
- ⑪長野県坂城高等学校
- ⑫山梨県甲府市立甲府商科専門学校
- ⑬埼玉県立秩父農工科学高等学校
- ⑭埼玉県立妻沼高等学校
- ⑮群馬県立高崎工業高等学校
- ⑯群馬県立藤岡工業高等学校
- ⑰群馬県立藤岡中央高等学校
- ⑱株式会社立日々輝学園高等学校
- ⑲埼玉県立進修館高等学校

※ 今後も周辺高等学校を中心に連携を推進中

公開講座・地域連携事業・高大連携

・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉工業大学 公開講座 (6月2日～6月30日)	英語コミュニケーション初級	ウイリアムズ教授	68人
	英語コミュニケーション中級	ウイリアムズ教授	72人
	日本人とリーダーシップ	宮崎教授	46人
	仏教経典を読む	宮井准教授	42人
	楽しい英会話—英語で歌おう	レメディオス木村	35人
	俳句を英語で	荒木教授	25人
	放射線と遺伝子	石川教授	45人
	素粒子と物理	志摩教授	45人
	脳の仕組みを考える	荒木教授	67人
	親子で学ぶモボ作り	長谷講師	24人
芳賀町科学実験教室 (8月12日)	親子で科学実験教室(学生プロジェクト)	松浦講師	150人

科学技術と親しむ会 (7月28日)	イニシャルとストラップづくり「溶接体験」 日本機械学会埼玉ブロック主催	長谷講師	7人
夏休みこども体験教室 (8月10日)	ペットボトルロケット教室 (午前の部・午後の部の2回実施)	奈良原専門員	58人
彩の国大学コンソーシアム (9月28日)	絆を育む脳・共感性の脳科学	亀谷教授	85人
SITフェア (10月7日)	研究展示(9研究室) 学生プロジェクトの展示(4プロジェクト)	大学祭同時開催	—
埼玉県産業教育フェア (11月10日～11日)	3D体験・フライトモデルシミュレータ キネクト	井門教授	—
総合教育センター教育展 (10月10日)	3D体験・キネクト他 (集まれセンター探検隊)	井門教授	—
埼玉県総合技術振興展 (10月10・11日)	レゴロボットと3D体験	橋本准教授 井門教授	—
科学技術を親しむ会 (1月12日)	ゴムワングランプリ	長谷講師	10人
さかきふれあい大学 (3月23日)	科学実験教室(小学生対象)	科学実験プロジェ クト 浜名准教授	70人

・埼玉県、深谷市との連携事業

講座	内容	講師	参加人数
こども大学ふかや (8月7日～11月27日)	入学式 ①3次元体験をしてみよう ②体のサインを測ってみよう ②スカイプで世界の友達とおしゃべり ③瓦の粘土を良くこねて作ろう ④電気について考えよう ⑤学園祭・郷土料理をつくろう ⑦子ども大学大集合(県内23の子ども大学)	井門教授 東都医療大学 井門教授 外部講師 井上准教授 青年会議所他 子ども大学集合	57人
ふかや市民大学 (7月7日)	現代社会におけるインターネット技術と 利用	荒木教授	80人

・高大連携校との模擬授業（協定校）

高校名	テーマ	講師	参加人数
群馬県立藤岡工業高校 (5月26日)	大学で学ぶ情報工学 日本を支えるものづくり	井門教授 長谷講師	40人
群馬県中高生徒対策協議 会研修会（高崎工業高校）	発達障害生徒への対応	高橋講師	80人
長野県坂城高校職員研修 (6月26日)	職員ストレスマネジメント研修	友田准教授	27人
群馬県立藤岡中央高校 (7月6日)	遺伝子とタンパク質の歴史 味覚の不思議	長谷部教授 熊澤教授	38人
埼玉県立熊谷商業高校 (8月1日～3日)	レゴロボットとプログラミング教室	井門教授	24人
埼玉県立深谷商業高校 (8月15・16日)	3次元CGとバーチャルリアリティ	井門教授	23人
群馬県工業教育研究会 (8月27日)	エネルギーの問題と電池の科学 (工業化学科教員研修)	内山学長 松浦講師	4人
群馬県立藤岡中央高校 (9月14日)	次回認証 インターネットセキュリティ	渡部准講師 前田講師	40人
日々輝学園高校 (9月27日)	インターネットの仕組みと利用方法 インターネットの現状と将来	前田講師 荒木教授	40人
埼玉県立深谷商業高校 (10月1日)	3Dバーチャルリアリティ (オーバーニュートン高校合同)	井門教授	39人
群馬県立藤岡工業高校 父母見学会 (10月24日)	大学全体説明 施設見学 情報システム学科研究室見学	内山学長 宮川課長 井門教授	38人
群馬県立高崎工業高校 (12月10日)	ルミノールの合成（化学系） 微小生物の観察（生物系）	浜名准教授 熊澤教授	40人
埼玉県立熊谷工業高校 (12月17日)	カルトにはまらないために	宮井准教授	270人
日々輝学園 (12月19日)	ゲームプログラミング体験（初級） ゲームプログラミング体験（中級） レゴロボットとプログラミング	関口准教授 前田講師 井門教授	12人 1人 2人
群馬県立高崎工業高校 (1月29日)	ロボットのプログラミング制御	橋本准教授	27人

埼玉県立妻沼高校 (3月15日)	外国を知る楽しさ	井門教授	127人
	金属を削るとは	長谷講師	30人
	液体窒素による極低温の世界	浜名准教授	25人
	作ってみると楽しい身近な回路	荒木教授	30人
	ネットとセキュリティ	前田講師	28人
	インクのシミが何に見える	高橋講師	29人

・補助金を使つての高大連携事業

高校名・事業名	テーマ	講師	参加人数
深谷高校 SPP (7月22日)	マルチメディア技術による地域情報の可視化と活用	井門教授	60人
寄居城北高校 SPP (7月27日～31日)	パノラマ VR と 3次元可視化を用いた地球と環境の学び	井門教授	42人
深谷高校 SPP (8月29日～31日)	3次元 CG による地球コンテンツ作成と体験	井門教授	27人
夏一サイエンスキャンプ (8月6日～8日)	バーチャルリアリティを活用した 3次元可視化	井門教授	20人
春一サイエンスキャンプ (3月25日～27日)	バーチャルリアリティを活用した 3次元可視化	井門教授	29人

・臨床心理セミナー

セミナー名	テーマ	講師	参加人数
土曜セミナー	風景とカウンセリング (9月15日)	三浦教授	66人
	心の発達と心の問題 (10月20日)	襲岩准教授	56人
	対人関係の社会心理学 (11月17日)	友田准教授	56人
	発達障害を理解するために (12月8日)	高橋講師	55人
	目は口ほどに物を言う (1月12日)	小野教授	42人
心理セミナー	知覚の不思議 (5月12日～10月6日)	曾我教授	延 111人
心理セミナー	箱庭療法の体験 (5月25～9月28日)	三浦教授	延 26人
子育て支援	幼児グループ (4月11日～12月19日)	友田准教授 高橋講師	延 249人

⑦ 主な施設設備計画の実施状況

臨床心理センター空調工事	10,500 千円
30 号館北側自動ドア設置工事	5,929 千円 (文部科学省 施設整備費補助事業)
高校 3 号館トイレ全面改修工事	13,650 千円
大学空調機器制御装置設備工事	11,484 千円
30 号館教室双方向 コミュニケーションシステム整備事業	26,250 千円 (文部科学省 教育研究装置整備事業)
高機能・高精度加工システム設備	39,900 千円 (文部科学省 教育研究装置整備事業)
デジタルマイクロスコープ一式設備	14,925 千円 (文部科学省 教育研究活性化整備事業)
学内サーバーシステム整備	40,370 千円
パソコン教室・CAD 室機器整備	34,442 千円

⑧ 就職事業状況

地域交流（長野県及び坂城町等）

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、就職活動を控えた 3 年生を対象に、9 月に 3 日間企業見学会を実施し、多くの学生が参加した。参加人数者は、9 月 4 日（7 名）・9 月 5 日（7 名）・9 月 12 日（19 名）であった。
- (2) 大学内で合同企業説明会を 2 月に開催し、坂城町の企業 2 社が参加した。
また、茅野・諏訪の企業も 2 社参加した。
- (3) 坂城町において地元企業による合同企業説明会が 6 月・3 月開催され、本学からも 2 名ほどの学生が参加した。
- (4) さかきテクノセンター主催による大学就職担当者による工場見学会及び地元企業とグループディスカッションや意見交換を行った。

学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は 8 月～9 月に筆記試験対策講座を集中的に開講し、2 月～3 月上旬直前対策講座を設けた。
- (2) 1 年生入学後に就職ガイダンスを実施すると共に、自己発見レポートを作成し、学生生活の充実を図り 3 年後の就職課都度を見据えたフォローガイダンスを実施した。
2 年生においては数回の就職ガイダンスを実施し、就職準備講座を実施した。

3年生では就職ガイダンスやインターンシップガイダンスや就職活動に必要な対策講座や研修を実施した。

また、インターンシップに参加した学生による報告会を実施した。

(3) 12月に大手企業を集めた業界研究セミナーを実施した。

(4) 昨年に引き続き、3年生対象の就職面接突破研修を国立女性教育会館において開催し、70名の学生が参加した。

参加できなかった学生のために、8日間の面接突破研修を設けていずれかの日程で参加を促し、全講座実施した結果、236名の学生が受講した。

関東地区大学理工系就職研究会

(1) 年間4回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。

(2) 7月に富士宮商工会議所雇用対策協議会の主催により、地元企業（ミヤマ工業 ㈱）の工場見学会や地元企業との情報交換会を行った。

(3) 10月に秋田県産業労働部雇用労働政策課の主催により、地元企業2社（日本興亜キャリアスタッフ CR ファクトリー㈱・三菱マテリアル電子化成㈱）を見学し、秋田県内企業と情報交換を行った。

(4) 関東経済産業局地域経済部産業人材政策課の紹介により、首都圏産業活性化協会（TAMA 協会）と情報交換会を10月に行った。

(5) 「学生の就職活動に関するカウンセリングについて」の講演会を開催した。

各県就職情報交換会

(1) 茨城県・群馬県・山梨県等、各県主催の就職情報交換会に出席しU-ターン就職希望者への情報とした。

合同就職説明会及び個別就職説明会

(1) 新4年生を対象とした学内合同企業説明会を述べ6日間実施し、述べ1137の学生が参加した。

(2) 未内定者を対象に学内で7月・9月・10月・11月・12月・2月・3月に企業説明会を行うと共に、学内での1次選考を行う企業には随時実施した。

(3) 8月に埼玉県内16大学が主催し埼玉県経営者協会・埼玉県中小企業家同友会・埼玉県情報サービス産業協会・りそな銀行の関係4団体の協力を得て、16大学合同企業説明会をさいたま市のホテルブリランテ武蔵野で開催し、70社の企業と500名を超える16大学の学生が集まった。本学から40名の学生が出席した。

その他の事業

(1) 埼玉産業労働部の補助事業として、3年生を対象に地元企業（赤城乳業㈱・同和ハイテック㈱）の工場見学会を行った。

(2) 7月に保護者向け就職ガイダンスを開催し、200名を超える保護者が参加し、ハローワーク熊谷所長の講演と就職課による就職ガイダンス及び個別面談を実施した。また、9月には後援会主催の保護者懇談会では就職課デスクを設け保護者と面談を行った。

- (3) 埼玉労働局の「学生情報」提供と大学ジョブサポーター常駐により、未内定者の個別対応を実施した。
- (4) 年度末には未内定者の保護者宛に学内での合同企業説明会の案内やハローワーク熊谷への就職登録を行った。
- (5) 学内において、群馬県職業訓練センター（ポリテクセンター）の説明会を開催した。
- (6) 昨年から週3日間キャリアカウンセラーによるカウンセリングと研究室訪問を実施した。
- (7) 学生会終了後に、埼玉県職業安定部長より講演会を実施した。
- (8) 諏訪工業メッセ時に地元企業との情報交換会をおこなった。

高校部門

① 平成 24 年度の卒業生進路実績

24 年度の卒業生の数は 341 名で、前年度の 358 名より少なかったが、4 年制大学の延べ合格者数は、581 名と、前年度の 538 名を大きく上回った。現役での 4 年生大学への進学率は 79.5%と前年度よりも 1 ポイントの増加で、目標としていた 80%をほぼ達成した。国公立大学への進学者数は 24 名で、目標としていた 30 名および前年度の 32 名には及ばなかったが、難関私大への進学実績は向上した。早慶上理の合格者数が昨年度の 16 名から 22 名に、GMARCH 合格者数は昨年度の 58 名から 74 名に増加した。

就職希望者は 10 名いたが、全員就職することができた。前年度と比べての目立ったのは、専門学校を選択した生徒が 44 名と増加したことと、浪人が減少したこととの 2 点だった。専門学校への進学者が増えたのは、医療、看護系の専門学校に人気が集まったためである。埼玉工業大学の合格者は 41 名でしたが、進学したのは 24 名と、前年度の 40 名から大きく減ってしまい、今後に課題を残した。

② 平成 25 年度入学者実績

25 年度の入学者は 398 名と、募集定員の 360 名、目標の 380 名を上回ることができた。内訳は特別進学系が 105 名で対前年比 9 名増、総合進学系が 206 名で 36 名増、スポーツ系が 87 名で 8 名減となっている。24 年度の入学者数が 361 名だったので、37 名増となるが、理由として考えられるのは、進学実績の向上を評価してもらったこと、年末年始に 3 つのクラブが全国大会に出場し、学校の知名度が上がったこと、東京成徳深谷高校が中学校を新設し、高校の定員を 70 名減の 280 名にしたことなどである。

③ 転入学者、転退学者数

24 年度の転入学者数は 3 名で、うち 1 名は台湾国籍のロータリークラブ留学生なので、実質は 2 名だった。退学者は 8 名で、1 年生が 5 名、2 年生が 3 名だった。転学者は 19 名で、3 年生が 3 名、2 年生が 9 名、1 年生が 7 名だった。そのうち処分によるものは、退学者が 1 名、転学者が 4 名で、残りは大部分が不登校や学業不振といった自己都合によるものである。

④ 学力向上策

授業の質向上に向けて導入した（株）ヒューマンリンクの授業レビューシステムは、具体的には2回の授業アンケートと3度の教員向けセミナーを実施した。導入の目的であった教科単位での情報共有や、非常勤講師を交えた会議の活発化については、まだ十分とは言えないが、確実に効果を挙げている。

年度当初に掲げた、「全類系で生徒一人ひとりの模試の偏差値を入学時よりも上げ、平均偏差値では2ポイント上げる」については、目標とした2ポイント上昇には僅かに届かなかったものの、すべての類系で偏差値が上昇した。

基礎学習を充実させるために、成績低迷者向けの講習と、教員が常駐する自習室である「正智学習室」を設けた。講習は留年の防止に役立ったが、学習室は期待したほど自主的に参加する生徒がいなかった。

資格取得の促進については、従来の英語検定に加えて、アタックの生徒全員に漢字検定を受検させた。

内部進学者の数を見ると、高大連携の強化についてはまだまだ改善の余地がある。

高大の教員で組織されている「高大連携検討委員会」から検討結果が提出されているので、連携強化に向けて具体策を検討する必要がある。

⑤ 人格形成

計画では建学の精神の浸透と生活指導の徹底の二つを挙げた。総合学習など日常の授業や、カール・ベッカー氏の講演などを通じて、建学の精神の浸透は図られている。被災した雄勝小学校との交流や、教頭先生に来校していただいた講演も、生徒たちの心に残るものだった。ただし建学の精神をわかり易く提示することは未だにできていない。

24年度は残念ながら、処分による退学者を出してしまったが、本校は生活指導に関してはかなり高いレベルにあると認識している。頭ごなしに押し付ける指導ではなく、理由を説明しながらの指導も効を奏しているものと考えている。

⑥ 社会人としての資質の醸成

24年度のハイライトのひとつに、男子バスケットボール部、サッカー部、男子バレーボール部の全国大会出場があった。クラブに所属している生徒たちだけでなく、全校応援を通じて、生徒たちは沢山のことを学んだ。また地域の皆さんとも連携が広がった。他にも山岳部、水泳部など4つのクラブがインターハイに出場し、関東大会には8つのクラブが出場した。文化部では将棋部が全国大会に出場を果たした。

学校行事では松川杯スポーツ大会や葵祭でも、生徒たちは自主的に様々なアクティビティーに挑戦し、教室で学べない様々な事柄を習得することができた。

3. 財務の概況

(1) 概況

平成24年度の収支状況は、収入の柱である学生生徒等納付金収入が安定的に増加し、帰属収入の増加に寄与、また支出面も横這いではあるものの、人件費の削減など固定費の圧縮効果もあり、安定した推移を示しています。

大学の学生募集については、平成22年度生の募集以降好調裡に推移しており、入学定員以上をコンスタントに確保し安定していますが、二学部間のバラツキが浮き彫りとなっており、平成25年度入学生から入学定員の振替を実施、受験生のニーズにあった定員構成に変更したところですが、結果、25年度度生の募集は入学定員を大幅に上回る学生確保に繋がったといえます。

また、高校の生徒募集につきましても、募集定員以上の募集を安定的に継続中の中、平成25年度生の入学者は、近年にない高い実績が現れています。

消費収入は一部の科目を除きほぼ予算以上の収入を示し、帰属収入合計では、下記の経年推移のとおり平成22年度に増加に転じ、その後においても安定推移を示しており、今後、更なる増加が期待出来る状況です。金額ベースでは、前年対比31百万円増加し4,351百万円の実績となり、基本金に180百万円の組入を実施し4,171百万円が消費収入となりました。

一方、消費支出について、人件費は退職金の関係の関係で大きな増減もありますが、ベースとしてはは着実に低下しております。また、教育研究経費については大幅に増加しましたが、教育、事務の効率化投資、建物の耐震診断など学生生徒の安全性確保のための投資を積極的に行った結果です。消費支出全体では4,198百万円で前年と横ばいとなり、消費収支の支出解消までは至らなかったものの、来期以降に期待が持てる決算となりました。

(2) 連続消費収支の状況

(単位 百万円)

科 目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
帰属収入合計 (A)	4,259	4,179	4,232	4,320	4,351
(内 学生生徒等納付金)	(3,059)	(3,026)	(3,123)	(3,346)	(3,359)
(内 補助金)	(839)	(826)	(811)	(660)	(761)
基本金組入額	324	290	278	267	180
消費収入合計 (B)	3,934	3,888	3,954	4,053	4,171
消費支出合計 (C)	4,515	4,471	4,259	4,198	4,198
(内 人件費)	(2,480)	(2,590)	(2,503)	(2,502)	(2,417)
(内 教育研究経費)	(1,517)	(1,450)	(1,276)	(1,264)	(1,322)
消費収支差額 (B)-(C)	△581	△583	△305	△145	△27
帰属収支差額 (A)-(C)	△256	△292	△27	122	153

(3) 資産負債の状況

総資産は23年度対比165百万円増加し17,969百万円となりました。

固定資産は、有形固定資産で投資額308百万円に対し、減価償却及び除却で469百万円ありましたので161百万円の減少、その他固定資産は5百万円の増加でした。

流動資産のうち現金預金は389百万円増加、未収入金は67百万円減少となりましたが、その他の科目と合わせ、流動資産合計で321百万円増加になりました。

負債勘定は、固定負債で長期借入金の返済中心に139百万円の減少、流動負債は前受金の収納など増加要因が大きく151百万円増加、総負債は12百万円増加いたしました。

総資産から総負債を引いた純資産は14,568百万円となりましたが、消費収支差額は支出超過の累積により、前年度と横這いではあるものの9,426百万円が翌年度繰越支出超過となりました。

(4) 連続貸借対照表の状況

(単位 百万円)

科 目	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
固 定 資 産	15,884	15,656	15,357	15,119	14,963
流 動 資 産	2,439	2,474	2,546	2,685	3,006
資産の部合計	18,323	18,130	17,903	17,803	17,969
固 定 負 債	2,767	2,665	2,471	2,256	2,117
流 動 負 債	944	1,159	1,140	1,132	1,283
負債の部合計	3,711	3,824	3,611	3,388	3,400
基本金の部合計	23,006	23,296	23,573	23,841	23,995
消費収支差額の部合計	△ 8,394	△ 8,976	△ 9,281	△ 9,426	△ 9,426
負債基本金消費収支差額の部合計	18,323	18,130	17,903	17,803	17,969